

目次

1	瓦礫にいのちが存在するか——真言密教の環境試論	松長有慶	1
2	中院流所伝の『理趣経法』について——『二法界ソリヤ法』を中心として	佐藤隆彦	12
3	日本密教における『瑜祇経』所説の尊格理解	鍵和田聖子	19
4	中世真言教学における識大の解釈	林山まゆり	25
5	最澄の九方院と九院の構想	桑谷祐顕	31
6	園城寺公胤の地蔵願文について	舘隆志	38
7	大乘の権・実についての再検討	多田修	45
8	法然と明遍の念仏	伊藤茂樹	50
9	身延文庫蔵『決疑鈔糅議』断簡の一考察	南宏信	56
10	善導の著作における護念の解釈について——西山教学の立場から見て	佐伯憲洋	62
11	親鸞における智慧	紅榎英顕	66
12	覚如・存覚を支えた門弟達——初期本願寺教団の生成	龍口恭子	74
13	親鸞の末法観と『弁正論』	藤原智	80
14	西本願寺本『教行信証』の本文整理	富島信海	84
15	南溪の行信論研究——巖牛事件を中心として	伊藤雅玄	89
16	『浄土の観念』における批判の射程	東真行	93
17	真宗における現代教学の現状と課題	頼尊恒信	97
18	鈴木大拙の ejaculation の説をめぐって	石井修道	102
19	称名寺所蔵『法門大綱』における禅思想	古瀬珠水	111
20	『正法眼蔵重写記』について	秋津秀彰	115
21	日蓮聖人における富木尼教化の一考察	奥野本勇	119
22	日蓮における地涌菩薩——守護の問題を中心として	桑名法晃	123

23	松譽著『翻迷開悟集』における『邪正問答』への反駁 ——『法華經』解釈を中心に——	庵谷行遠	一二七
24	鎮源『法華驗記』と慶滋保胤『日本往生極樂記』 ——『法華驗記』第三七話「六波羅密寺定読師康仙法師」の並行話比較——	岡田文弘	一三二
25	千箇寺詣の信仰形態……	望月真澄	一三六
26	『十訓抄』における「見る」ということ——「冥顯」像との関連から——	川本 豊	一四四
27	中井竹山と会沢正志斎による仏教批判	栗本真好	一四八
28	島田裕巳著『葬式は、要らない』の葬儀費用に関するデータ分析について	愛宕邦康	一五二
29	密教図像と別尊曼荼羅の構想……	真鍋俊照	一五六
30	憬興『觀經疏』復元の試みとその思想的意義について	中村玲太	一六五
31	『摩訶僧祇律』における「四波羅夷」の解釈法について ——特に「智」を重視する一側面に注目して——	胡建明(法音)	一六九
32	『涅槃經』と「無常偈」……	森山結希	一七四
33	『小涅槃經』の成立背景——宗祐寺所蔵仏涅槃圖を手がかりとして——	岸田悠里	一七八
34	真如縁起(隨縁)説の思想史的背景 ——中国仏教における『究竟一乘宝性論』の位置づけの再検討——	李 子捷	一八二
35	道倫(遁倫)集撰『瑜伽論記』について ——基撰『瑜伽師地論略纂』との関係から——	水谷(林)香奈	一八六
36	吉蔵の浄土觀に関する一考察——仏身論を手掛かりに——	榎屋達也	一九二
37	智儼における解・行の変遷……	櫻井 唯	一九六
38	神智從義の複俗義について……	弓場苗生子	二〇〇
39	『釈禪波羅蜜次第法門』における因縁門について……	大松久規	二〇五
40	天台智顛より見た三論……	林 瑞蘭	二一〇
41	宋代における六即解釈の一樣相——六即の能所義について——	久保田正宏	二一四
42	漢訳『大日經』の註釈書成立に関する一、二の問題……	真野新也	二一八

43	『釈摩訶衍論』における「三十三法門」の意義 ——十種論との関わりを中心に——	関 悠 倫	二二四
44	『往生論註』における諸仏国土観	石 川 琢 道	二二八
45	『念仏鏡』引用の「法王本記」 第六十六回学術大会記事 学術大会開催予告 研究発表および論文掲載に関する規則 学会誌編集査読委員規則 会則・役員名簿 情報提供のお願い	加 藤 弘 孝	二三五
			二四二
			二四九
			二五一
			二五二
			二五四
			二五九
46	Prajapatiの骨盤が外れた神話	西 村 直 子	二六六
47	王権即位式と婆羅門——王族祭主とソーマ祭	大 島 智 靖	二七二
48	UtpalaによるKhandakhadyaka注解に見られるmīra	呂 鵬	二七六
49	韻律と言語特徴から見たBharaesvarabāhubalīśaの成立状況	山 畑 倫 志	二八二
50	生死に流転する身体——Yuktipikaにおける輪廻主体考	近 藤 隼 人	二八七
51	シヴァ教再認識派写本の欄外註について	川 尻 洋 平	二九三
52	パーリ聖典中の信の構造に関する一考察——動詞形の格支配に注目して——	古 川 洋 平	二九七
53	Saddantiにおけるvibhatiとvacana	渡 邊 要 一 郎	三〇一
54	不邪姪戒再考——風俗通いは許されるか——	岩 井 昌 悟	三〇八
55	波羅夷第三条条文の考察	李 薇	三一二
56	《一切衆生喜見菩薩説話》のパラレル研究 ——Dvāṃśatyavadanakathā 18章 燈明供養話と『法華経』薬王品——	岡 田 真 美 子 (真 水)	三二〇
57	ナーガ調伏のモチーフ——Nandopanandī-nāgarājadamanaの形成に関連して——	林 隆 嗣	三二八
58	Kanaganahalli大塔における祇園精舎布施の場面について	中 西 麻 一 子	三三二
59	大乘涅槃経と説一切有部	平 岡 聡	三四〇

60	有部の順解脱分と「想起触媒型」大乘經典……………	佐々木閑……………	三四八
61	『阿闍世王經』抄本の梵文写本……………	加納和雄……………	三五五
62	<i>Bhavasamkrāntisūtra</i> のプダク写本……………	津田明雅……………	三六一
63	モハマッド・ナリー出土仏説法図と『大阿弥陀經』……………	壬生泰紀……………	三六六
64	『維摩經』と文殊菩薩……………	西野翠……………	三七二
65	韻律から見た『楞伽經』の成立史問題について —— <i>sloka</i> の <i>vipula</i> パターンに注目して——……………	石橋丈史……………	三七六
66	『成実論』における三昧……………	阿部真也……………	三八一
67	説一切有部の断惑論——他界遍行随眠の断じられ方について——……………	藤本庸裕……………	三八五
68	九十八随眠説における戒禁取——見苦、見道所断分別の検討——……………	水野和彦……………	三八九
69	『牟尼意趣莊嚴』から回収されたチャンドラゴーミンの『入三身論』梵文断片……………	李学竹……………	三九六
70	大乘菩薩道における無相と滅尽定の背景について……………	太田露子……………	四〇二
71	バーヴィヴェーカの円成実性批判……………	大谷光義……………	四〇六
72	『大乘莊嚴經論』「真実品」における <i>advaya</i> の一考察……………	早島慧……………	四一一
73	『大乘莊嚴經論』第Ⅹ章における三性説……………	間中充……………	四一五
74	プラパンチャ (<i>Prapāṇca</i>) の生成過程に関する考察 ——アサンガ著『順中論』『菩薩地』の解釈を通して——……………	横井滋子……………	四一九
75	『カーランダ・ヴューハ・ストトラ』における六字真言と准胝陀羅尼……………	佐久間留理子……………	四二五
76	四智讃の成立と展開……………	徳重弘志……………	四三一
77	Anandagarbha 著『降三世曼荼羅儀軌』の前行儀軌について……………	伊集院栞……………	四三五
78	ダルマキールティ年代論の追加資料……………	木村俊彦……………	四四三
79	アポーハの遍充把握——デイグナーガとクマーリラ——……………	片岡啓……………	四五〇
80	ヴィヨーマシヴァとシユリーダラの刹那滅論証批判 ——その批判の対象と批判の論点——……………	酒井真道……………	四五八

81	後期シチエ派の教誡に関する一考察	西岡祖秀	四六七
	——医療文献『教誡・蓮華の鬘』について——		
82	初期チベット論理学書の科段構成について	福田洋一	四七五
83	プダク写本カンギユル所収『八千頌般若』の位置付け	庄司史生	四八一
84	ゲツエ・マハーパンデイタによる「サムイエの宗論」論考	榎殿伴子	四八七
85	モンゴル語訳『無量寿経』の訳語の特徴について	ダワードルジアルブドルジ	四九一
86	『般若心経』をめぐる諸問題——ジャン・ナティエ氏の玄奘創作説を疑う——	石井公成	四九九
87	釈彦琮の出自と著作	齊藤隆信	五〇八
88	資聖寺道液による天台文献の依用について	松森秀幸	五一四
89	太賢の『梵網経古迹記』に関する一考察——元暁との関連を中心として——	李忠煥	五一八
90	奥書が無いネワール仏教写本の書写者たち	吉崎一美	五二四